



# 宗四小だより

7月号

志木市立宗岡第四小学校

志木市上宗岡1-1-2

048-473-5250

<http://www.mune4syo.ed.jp>

児童数575名 令和3年6月25日発行



『目指す学校像『笑顔・感動いっぱい 虹色に輝く みんなの学校』』



## 「学力向上」～思考力・判断力・表現力等の育成を目指して～

校長 高柳 政行

本校では、志木市教育委員会より、令和2・3・4年度「すべての児童が自分の思いを豊かに表現できる授業づくり～国語科の指導を通して～」に関する研究委嘱を受けています。その際、共栄大学の光野公司郎先生から指導を受け研究を進めています。ここでは、1つの事例を通して、思考力・判断力・表現力等に関する学力向上についてお話しします。

例えば、右下に示しました「ぼくのおとうさん」という作文を基盤となる論理的な表現の型として位置づけます。表現の型は【はじめ】【なか】【まとめ】【むすび】の四構成です。お父さんについて表現する場合、自分なりのお父さんに対する意見や主張を伝えることが目的となります。この「意見や主張」を表現するところが【むすび】となります。しかし、「おとうさんのようになりたい」と「意見や主張」だけ表現しても思いは伝わりません。どうしてそう考えるのかという根拠がないからです。この根拠が【まとめ】となります。「働き者で立派な大人だからぼくも将来はお父さんのようになりたい」ということです。しかし【まとめ】で示した「働き者」というだけでは説得力がありません。それは単なる思いであり証拠とはならないからです。そこで、どうしてそう思うのかという証拠を示す必要があります。その場所が【なか】です。「夜遅くから」「朝早くから」「夜遅くまで」働いているから「働き者」と判断できるということです。【はじめ】は表現する対象、つまり「何について表現するのか」ということについて示すところとなります。この型の表現を使って自分の思いを表現することは小学校1年生から可能です。しかし、教育という観点で見ると各学年で重点的に指導すべきところが明確になっています。そのことは、「学習指導要領」に明示されています。

中学年では【「なか」と「まとめ」の部分の要素間の関係性（帰納的）】を重点的に指導することになります。「学習指導要領」の中学年の指導事項では「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉える」とあります。ですから、【まとめ】「毎日、毎日よく働きます」という考えを述べるためには、【なか】で「①夜おそくまではたります。」「②朝早くから働きます。」のように具体的事実を位置づける必要があるということ指導していくこととなります。

高学年になると、【まとめ・むすびの部分の要素間の関係性（演繹的）】を意識的に表現できるようになってきます。「学習指導要領」に示された指導事項は「事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」です。【むすび】の「ぼくは、お父さんのようになりたいです」は「意見」となります。その根拠となる【まとめ】の「毎日、毎日よく働きます」は「感想」と言えるでしょう。この抽象的な関係性が意識できるようになるのが高学年なのです。

では、低学年の中心となる学習は何でしょうか。それは【なか】をどのように並べれば説得力があるのかを考えることです。「学習指導要領」の指導事項には「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」とあります。「ぼくのおとうさん」の場合は「①夜おそくまではたります。」「②朝早くから働きます。」と時間的な順序で配列されていることとなります。

国語科でこのような学びをしっかりと行い、国語科で学んだことを他教科で活用していくことが思いを豊かに表現していくことにつながると考えています。研究では、学校全体として、国語科で学んだことを特に、生活科や総合的な学習の時間に活用することを意識して取り組んでいます。また、国語科はもちろん他教科等においても音読を重視し、スラスラと速く読める力を育成していきます。将来、黙読できる力につながっていきます。

このように多様な言語活動の取組を通して学校教育短期目標（左下の表）に掲げた3つの資質・能力の一つ「思考力・判断力・表現力等」に関わる学力の向上を目指し「考える子ども」を育成していきます。また、その学びを、協働的に行うことにも取り組んでいきます。その力は、「思いやりのある子ども」の育成にもつながっていきます。

### < 小学校学習指導要領との関連 >

学校教育目標 3つの資質・能力の育成	考える子ども	思いやりのある子ども	むすび	まとめ	なか	はじめ	四構成
未知の状況にも対応できる 思考力・表現力・判断力等の育成	自分の考えを豊かに表現したり、学んだことを応用し、よりよく課題を解決することや、新しい課題に取り組んだりすることができる子	多様な考えを認め合ったり、他者と協力し合ったりしながらよりよい言葉がけや行動することができる子	ぼくはお父さんのようになりたい	お父さんはよくはたら	②朝早くからはたらく ①夜おそくまではた	トラックのうてん手	各要素の要約